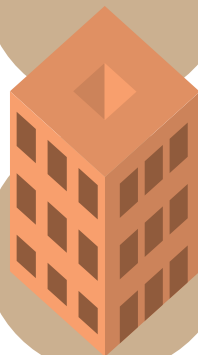
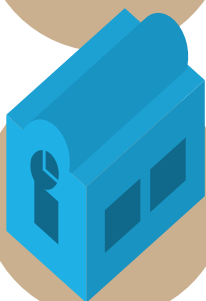
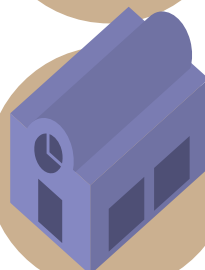
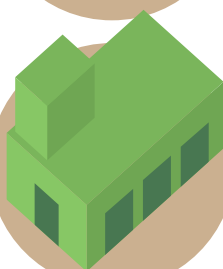
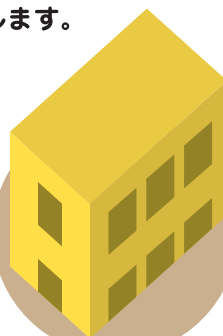
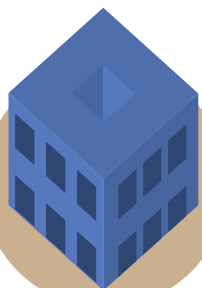


中学校選択に関する調査

地域の公立中学校への進学、学校選択制による中学校選択、
私立や国立の中学校の受験、公立中高一貫校の受検

中学校選択にかかわる子どもと保護者の思いとは？

Benesse教育研究開発センターでは、2007年12月に、全国の公立小学校に通う6年生とその保護者を対象に、中学校選択に関する意識や行動をとらえることを目的とした調査を実施しました。この速報版では、調査結果のなかから特徴的なデータを取り上げてご紹介します。



調査概要

- 調査テーマ 小学6年生とその保護者の中学校選択に関する意識と行動
- 調査方法 郵送法による自記式質問紙調査
- 調査時期 2007年12月

- 調査対象 全国の公立小学校に通う6年生とその保護者
〔小学6年生〕
1,501名（女子768名、男子718名、無回答・不明15名）
配布数3,596通、回収率41.7%
〔保護者〕
1,504名（母親1,402名、父親89名、その他9名、無回答・不明4名）
配布数3,596通、回収率41.8%
※調査対象者は、全国の公立小学校6年生のリストに基づいて無作為に抽出。小学6年生用の調査票と保護者用の調査票をあわせて郵送し、回収した。

- 調査項目 〔小学6年生〕
生活時間／学習時間／習い事／学校外の学習機会／学習塾の利用／中学受験について／希望する進学段階／希望する職業／学習観・職業観・価値観／学校生活／成績の自己評価／得意・苦手なこと／通いたい中学校／心や身体の疲れ／親と話す内容／親との関係など
〔保護者〕
子どもへのかわり／家庭の教育方針・悩み／子どもの将来像／習い事／学校外の学習機会／学習塾の利用／教育費／教育についての情報源／中学校選択について／中学受験について／希望する進学段階／小学校や先生への満足度・要望／子どもを通わせたい中学校／教育観・社会観など

用語説明

- ①本調査における「中学校選択」とは、地域の公立中学校への進学とともに、「学校選択制」による中学校選択や「中学受験」による中学校選択を経た進学を含んでいる。
- ②「学校選択制」とは、市（特別区を含む。以下同じ）町村教育委員会が子どもの就学する小学校・中学校を指定する際に、あらかじめ保護者の意見を聴取するもので、導入は市町村教育委員会にまかされている。2004年度までに中学校入学段階での「学校選択制」を導入しているのは161自治体（2校以上の中学校を置く自治体の11.1%）である（文部科学省「小・中学校における学校選択制等の実施状況について（調査結果の概要）」2005年3月）。導入していない自治体では、一般的に、学校ごとに通学区域を設定し、それに基づき就学校を指定している。
- ③本調査における「中学受験」には、入学にあたり学力試験などの選抜が行われる私立中学校や国立大学法人の附属中学校などの受験に加え、1999年4月より導入された国公立の中高一貫教育校の受験・受検も含めている。中高一貫教育校は、2007年4月現在、全国に257校設置されており、そのうち公立は43都道府県に149校ある（そのうち受検が必要なのは、中等教育学校17校、併設型の中学校・高等学校55校。文部科学省「各都道府県等における中高一貫教育校の設置・検討状況について」2007年8月）。公立の中高一貫教育校（以下、公立中高一貫校と表記）では、適性検査や面接などによる選抜が行われ、一般的には「受検」と表される。

目次

1 学校に対する意識	4
2 中学校選択	8
3 子どもの生活	14
4 保護者のかかわり	18
5 教育観	20

分析にあたって 基本属性

分析にあたって

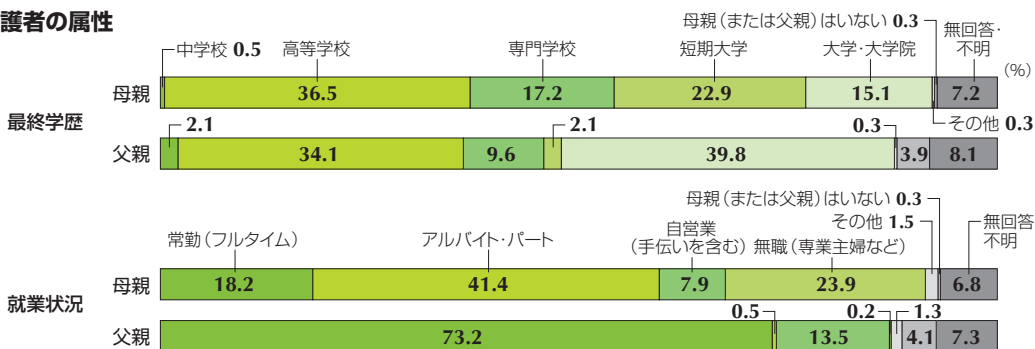
- ①本文中では、小学6年生を「子ども」と表記している。また、「子ども」は小学6年生の回答、「保護者」は保護者の回答を示している。
- ②本文中の「人口規模」は、回答者が居住する市区町村の人口規模を指し、保護者が回答した都道府県・市区町村名により人口を特定・算出した(総務省統計局編『統計でみる市区町村のすがた2007』(財)日本統計協会、2007年の人口データを使用)。なお、区分は以下のように設定した。
- 「特別区・指定都市」…特別区(東京23区)および2008年3月現在の政令指定都市17市(札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、川崎市、横浜市、新潟市、静岡市、浜松市、名古屋市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、広島市、北九州市、福岡市)
- 「15万人以上」…特別区・指定都市を除いた人口15万人以上の市町村
 「5~15万人」…人口5万人以上15万人未満の市町村
 「5万人未満」…人口5万人未満の市町村
- ③「子ども」の分析における「受験しない」の数値は、小学6年生に対する「あなたは今、どこかの中学校を受験しようと思っていますか」の問いに「いいえ」と回答した小学6年生1,241名を、「受験する」の数値は、「はい」と回答した203名を母数として算出している。「保護者」の分析における「受験させない」の数値は、保護者に対する「あなたはお子様に、中学受験をさせる予定ですか」の問いに「いいえ」と回答した保護者1,278名を、「受験させる」の数値は、「はい」と回答した198名を母数として算出している。

基本属性

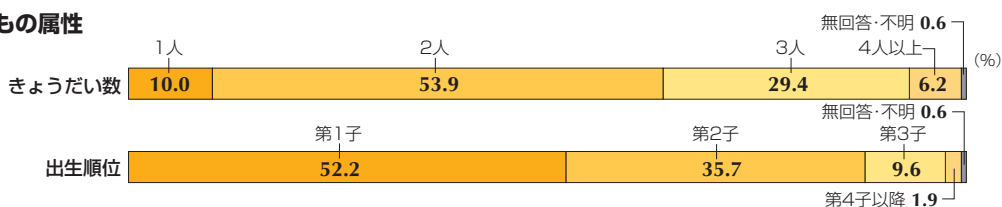
回答者の居住地



保護者の属性



子どもの属性



1 学校に対する意識

子ども

小学校について

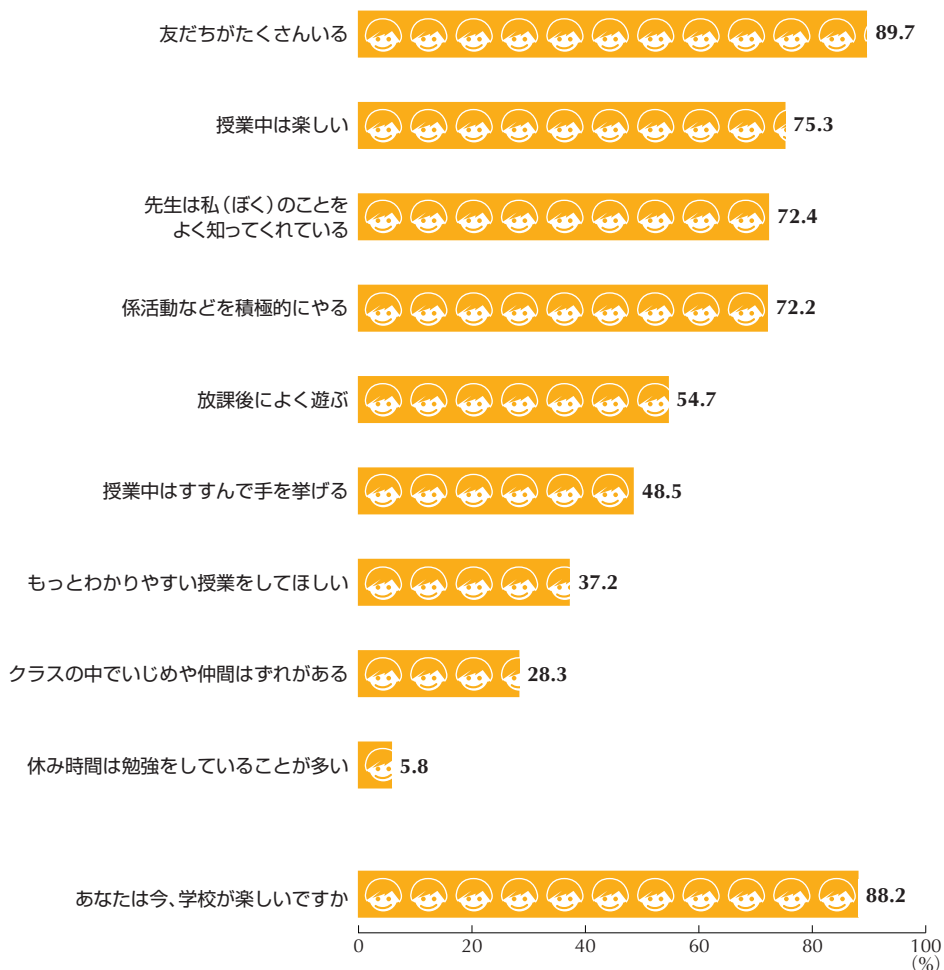
9割の子どもは、「学校が楽しい」と感じている

9割の子どもは「友だちがたくさんいる」、7割以上の子どもは「授業中は楽しい」「先生は私(ぼく)のことをよく知ってくれている」と感じており、「学校が楽しい」という回答は88.2%である。一方、「もっとわかりやすい授業をしてほしい」と考える子どもも約4割いる。



学校での様子や通っている学校について教えてください。

■ 図1-1 学校での様子や学校について思うこと



注 「とてもそう」+「わりとそう」の%。ただし、「あなたは今、学校が楽しいですか」については、「とても楽しい」+「わりと楽しい」の%。

保護者

小学校や先生への要望・満足度

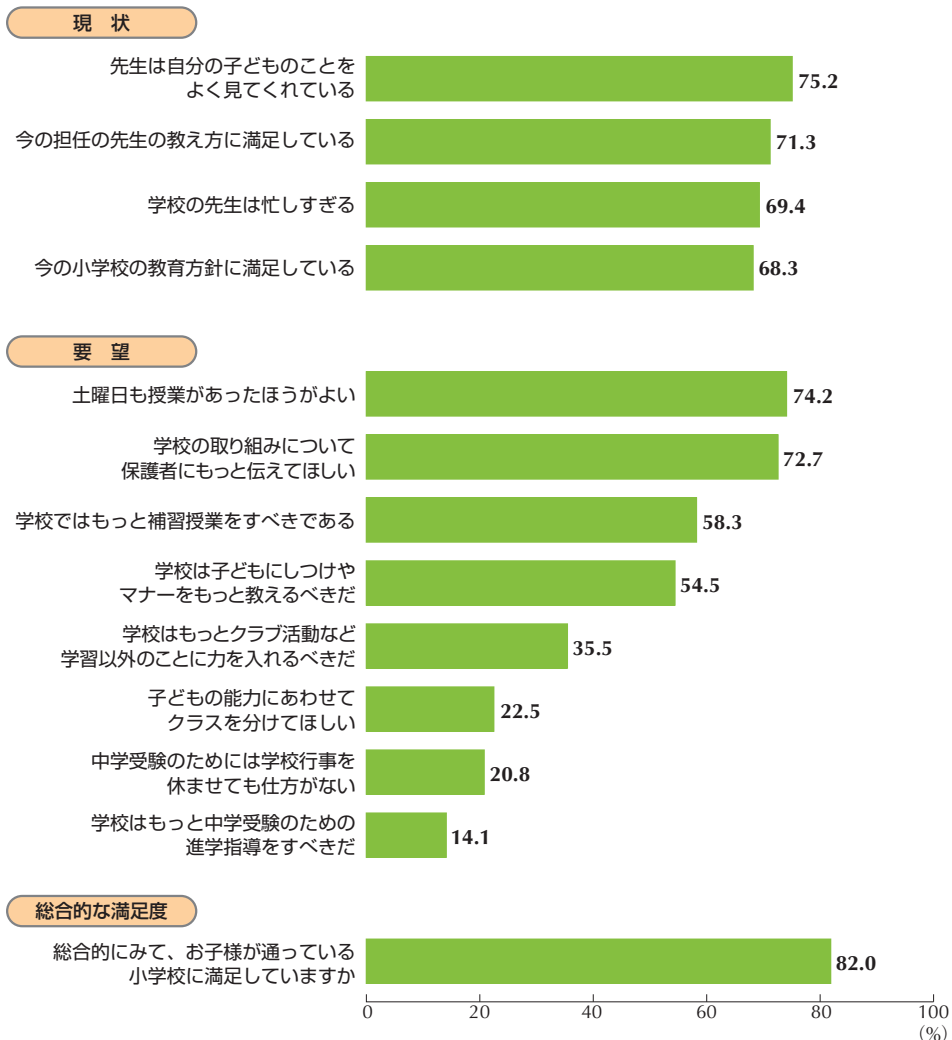
小学校への満足度は約8割と高いが、さまざまな要望も持っている

約7割の保護者が、先生の指導や教え方、学校の教育方針の現状に満足しており、総合的な小学校への満足度も約8割と高い。しかし、7割以上が、土曜日の授業や、学校の取り組みを伝えてもらうことを望んでいるほか、学校への要望は多い。



小学校や先生について、どのような考えをお持ちですか。

■ 図1-2 子どもが通っている小学校や先生について



注 「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%。ただし、「総合的にみて、お子様が通っている小学校に満足していますか」については、「とても満足している」+「まあ満足している」の%。

子ども

通いたい中学校

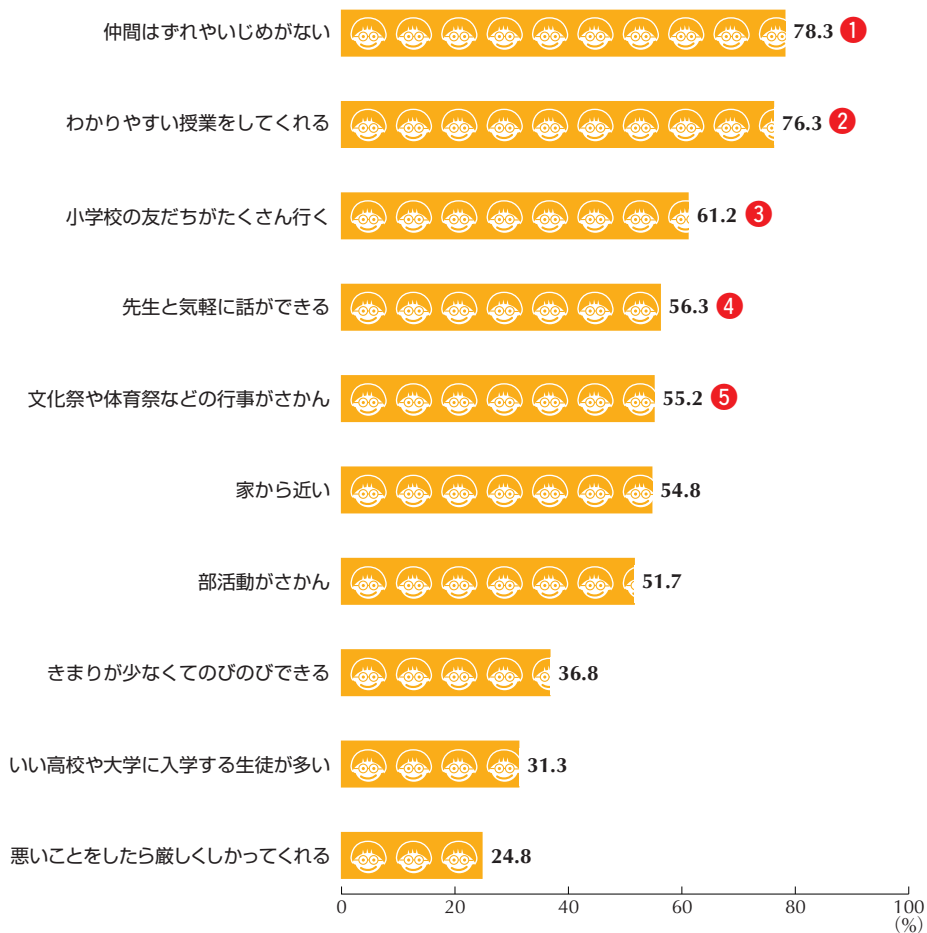
子どもは、友だち関係や授業のわかりやすさを重視している

「とてもそう思う」の比率が高いのは、「仲間はずれやいじめがない」「わかりやすい授業をしてくれる」「小学校の友だちがたくさん行く」であり、子どもは、友だち関係や授業のわかりやすさを重視している。



どんな中学校に通いたいと思いますか。

■ 図1-3 通いたい中学校



注 「とてもそう思う」の%。上位5項目までを①～⑤と表示。

保護者

通わせたい中学校

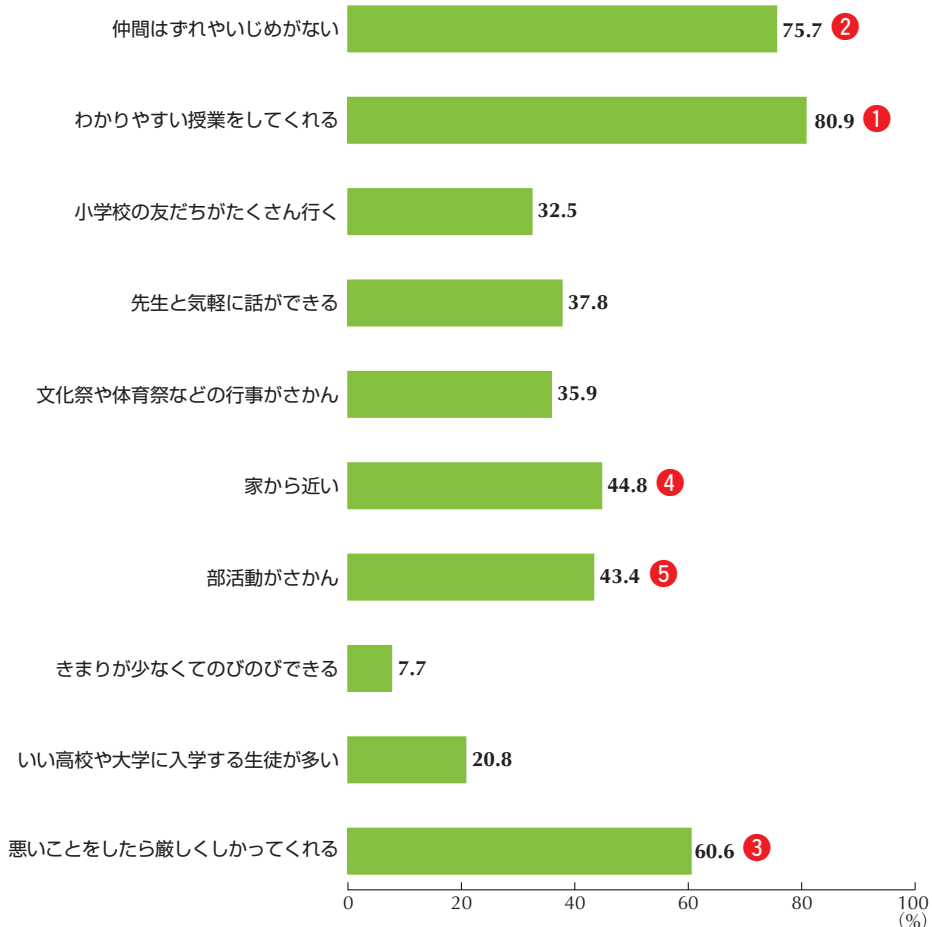
保護者は、友だち関係や授業のわかりやすさに加え、生活面の指導も重視している

「とてもそう思う」の比率が高いのは、「わかりやすい授業をしてくれる」「仲間はずれやいじめがない」「悪いことをしたら厳しくしかってくれる」である。上位2項目は子どもと同じであるが、保護者は生活面の指導も期待している。



お子様をどんな中学校に通わせたいと思いますか。

■ 図1-4 子どもを通わせたい中学校



注 「とてもそう思う」の%。上位5項目までを①～⑤と表示。

2 中学校選択

保護者

学校選択制

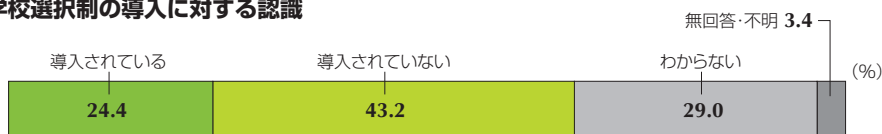
学校選択制導入を希望している保護者は、約3割

学校選択制が「導入されている」と認識している保護者は全体の24.4%。また学校選択制が「導入されていない」「(導入されているか)わからない」とした保護者のうち、約3割が導入を希望している。人口規模が大きい地域ほど導入を希望する比率が高くなっている。



お住まいの地域では、公立中学校の「学校選択制」が導入されていますか。

■ 図2-1 学校選択制の導入に対する認識



「導入されている」と回答した人のみ対象

お子様をどの公立中学校に進学させるか考えましたか。

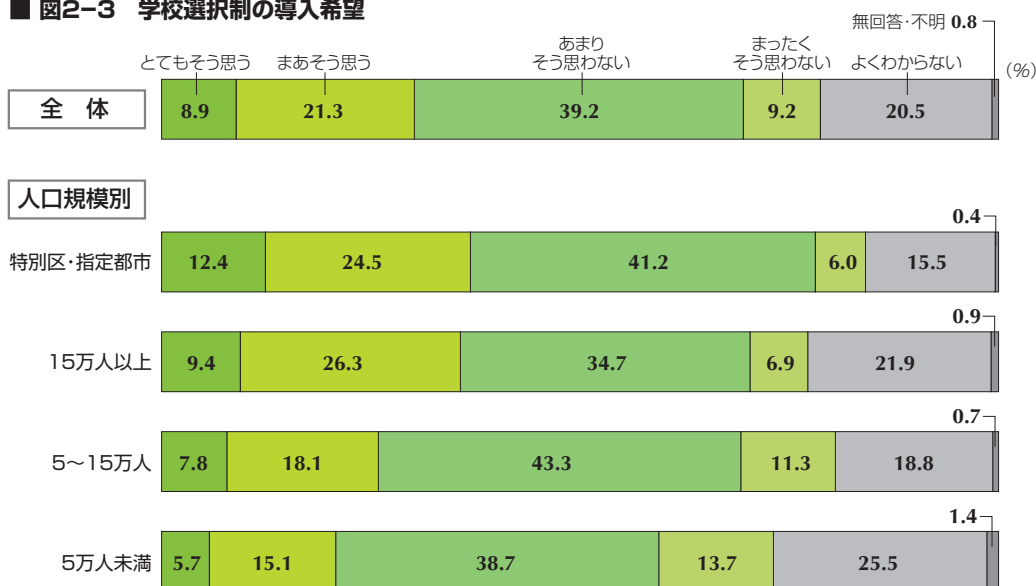
■ 図2-2 学校選択制の利用について



「導入されていない」「わからない」と回答した人のみ対象

「学校選択制」を導入してほしいと思いますか。

■ 図2-3 学校選択制の導入希望



保護者

中学受験

子どもに中学受験をさせる予定の保護者は、全体の約13%

中学受験をさせる予定の保護者は、全体の13.2%。逆に85.0%の保護者は子どもに中学受験をさせず、選抜のない公立中学校に進学させる予定である。世帯収入、母親の学歴、母親の就業状況の違いによって中学受験率には差がみられる。



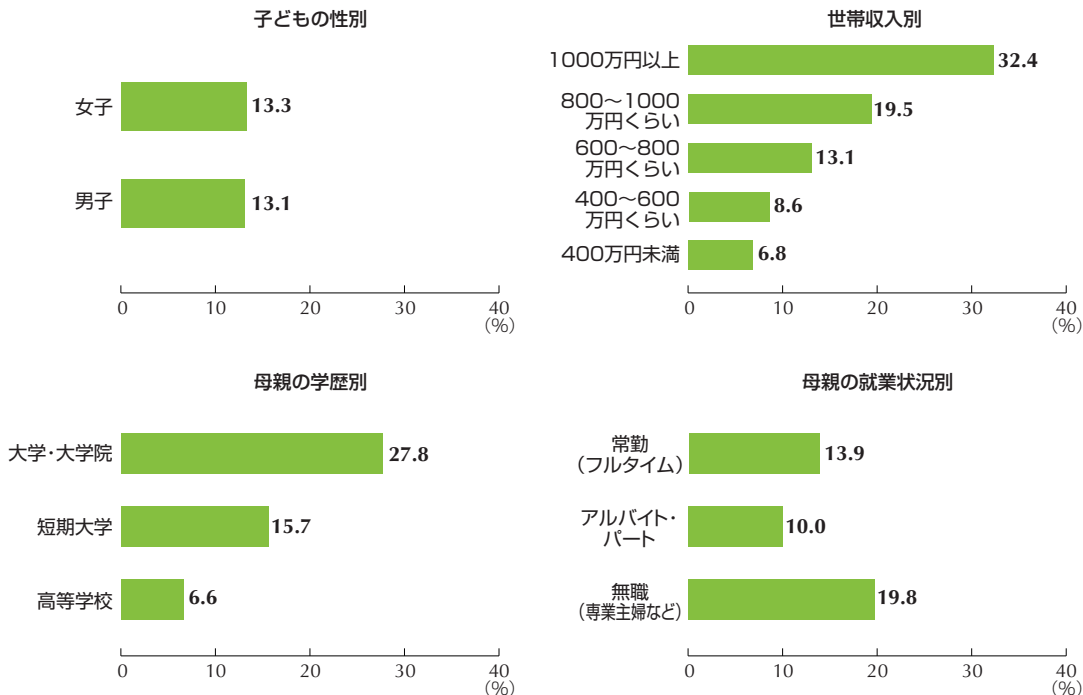
お子様に、中学受験をさせる予定ですか。

■ 図2-4 中学受験をさせる予定



注 子どもにも受験予定をたずねているが(「あなたは今、どこかの中学校を受験しようと思っていますか」)、「はい」13.5%、「まだ決めていない」3.0%、「いいえ」82.7%、無回答・不明0.8%で、約95%が保護者の回答と一致していた。

■ 図2-5 中学受験をさせる予定(属性別)



注1 「はい」の%。受験には、公立中高一貫校の受検も含めている(p.2を参照)。

注2 世帯収入別で、「400万円未満」は「200万円未満」+「200~400万円くらい」の%。「1000万円以上」は「1000~1500万円くらい」+「1500万円以上」の%。

保護者

中学受験—地域による違い—

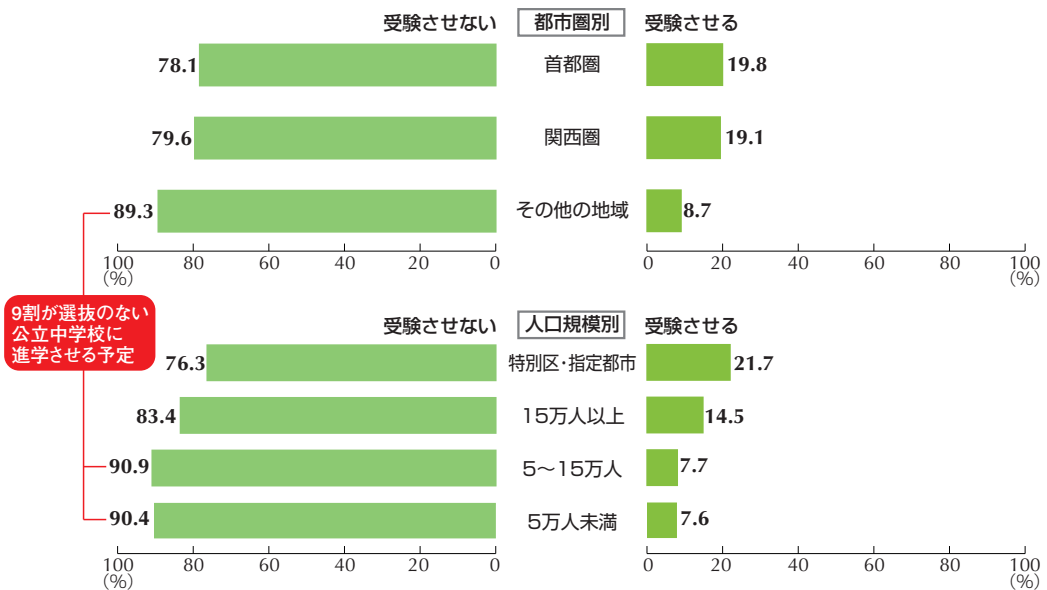
首都圏・関西圏、人口規模の大きい地域ほど受験率が高い

首都圏・関西圏では中学受験させる保護者が2割程度いるが、その他の地域では1割に満たない。中学受験率は居住する自治体の人口規模によっても差がみられ、「特別区・指定都市」では約2割、「5～15万人」や「5万人未満」の地域では8%程度である。



お子様に、中学受験をさせる予定ですか。

■ 図2-6 中学受験をさせる予定（地域別）



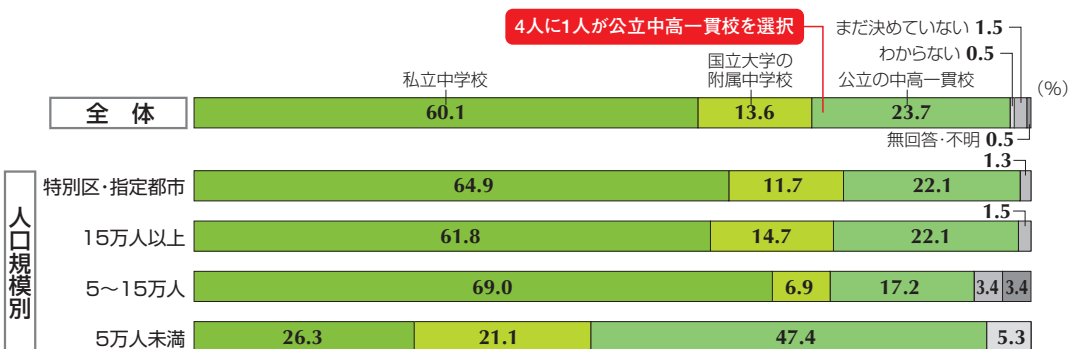
9割が選抜のない公立中学校に進学させる予定



受験させる保護者のみ対象

第一志望の学校は、どのような中学校ですか。

■ 図2-7 第一志望校



保護者

中学受験のパターン

公立中高一貫校の第一志望者は、受験決定時期が遅く、受験予定校数が少ない

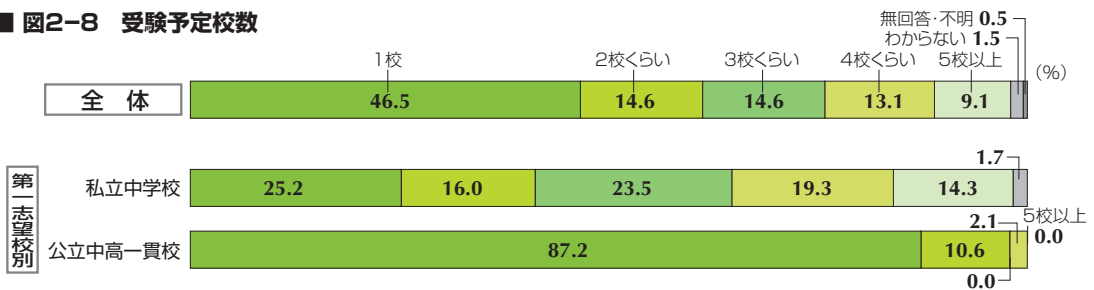
公立中高一貫校第一志望者は、約75%が6年生になってから受験を決め、約9割が1校のみの受験を予定している。それに対して私立中学校第一志望者は、4～5年生で受験させようとする場合も多く、7割を超える保護者が2校以上の受験を考えている。

Q

受験させる保護者のみ対象

何校くらい受験させるつもりですか。

■ 図2-8 受験予定校数

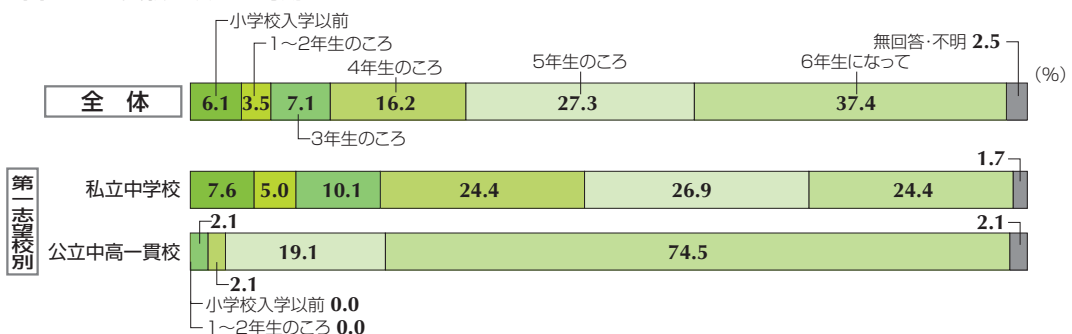


Q

受験させる保護者のみ対象

中学受験をさせようとしたのはいつですか。

■ 図2-9 受験を決めた時期

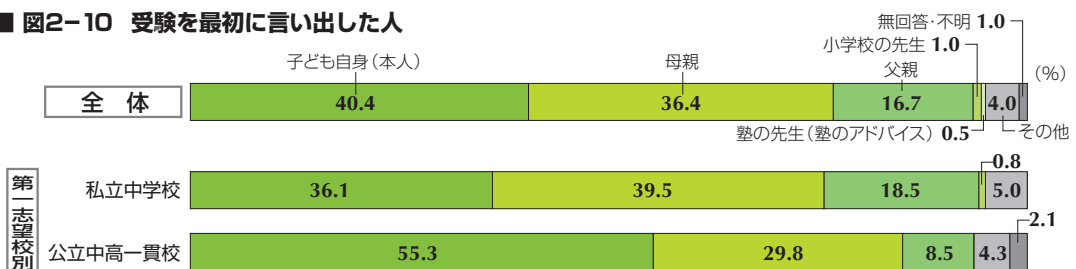


Q

受験させる保護者のみ対象

中学受験を、最初に思った(言い出した)人はどなたですか。

■ 図2-10 受験を最初に言い出した人



注 第一志望校別の「私立中学校」は、「第一志望の学校は、どのような中学校ですか」の質問に「私立中学校」と回答した人。「公立中高一貫校」は同じ質問に「公立の中高一貫校」と回答した人(図2-8～10)。

子ども

中学受験をしない理由

約8割が「近くの公立中学校に行きたいから」と考えている

受験をしない理由の上位3つは「近くの公立中学校に行きたいから」「高校を受験すればよいから」「受験をするのは大変だから」。「近くの公立中学校に行くのが当たり前だから」は人口規模の小さい地域で、「受験勉強をしたくないから」「もっと遊びたいから」は人口規模の大きい地域で、「そう思う」の比率が高い。



受験しない子どものみ対象

中学受験をしないのは、どうですか。

■ 図2-11 中学受験をしない理由



子ども

中学受験について思うこと

受験する子どもは悩みを抱えているものの、積極的な評価もしている

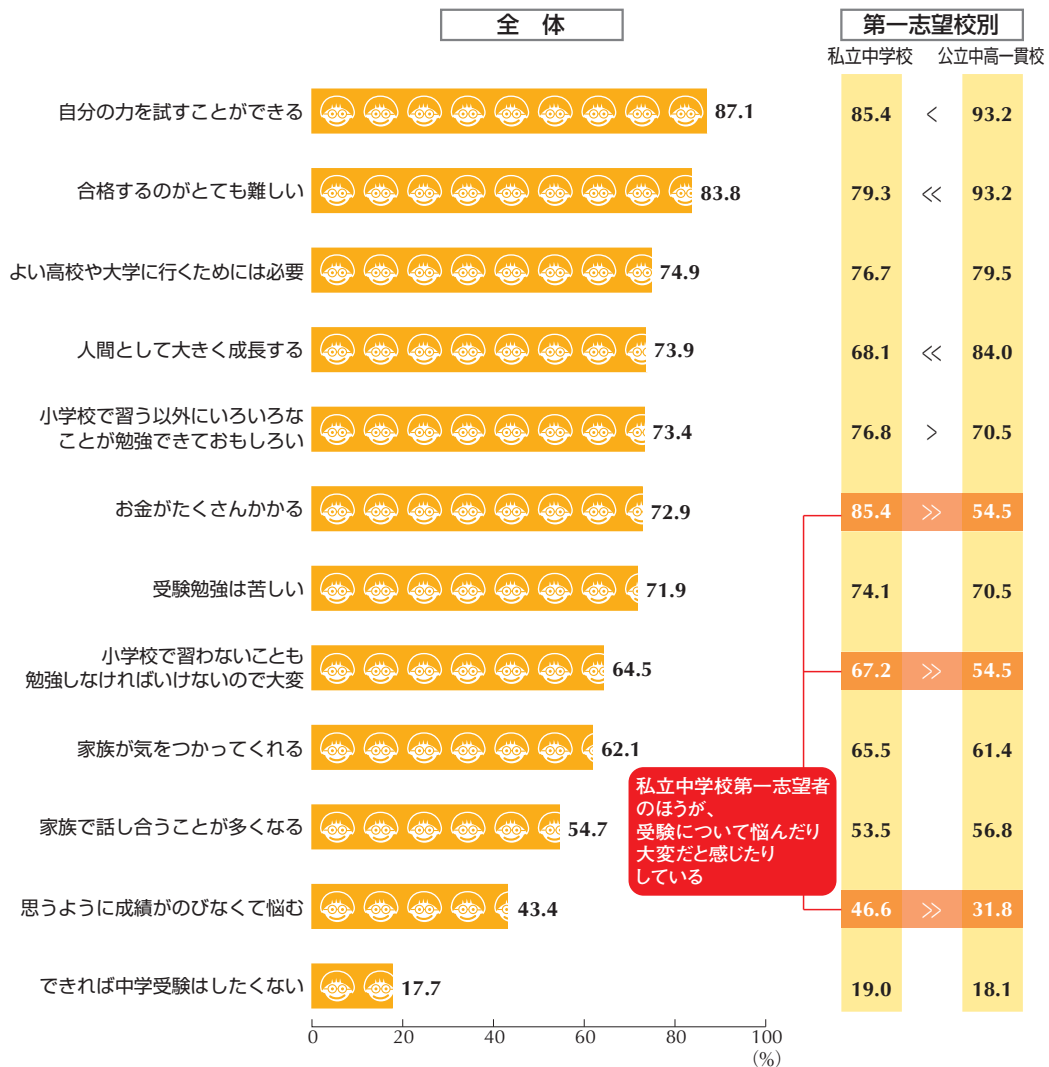
受験する子どもの7割以上が「合格するのがとても難しい」「受験勉強は苦しい」という悩みを持っている一方で、「自分の力を試すことができる」「人間として大きく成長する」など、自分にとってプラスだという実感も持っている。



受験する子どものみ対象

中学受験についてどう思いますか。

■ 図2-12 中学受験について思うこと



注1 「とてもそう思う」+「わりとそう思う」の%。

注2 <<>>は10ポイント以上、<>は5ポイント以上差があるもの。

注3 「私立中学校」は、保護者に対する「第一志望の学校は、どのような中学校ですか」の質問に「私立中学校」と回答した人。「公立中高一貫校」は同じ質問に「公立の中高一貫校」と回答した人。

3 子どもの生活

子ども

受験しない子どもの生活

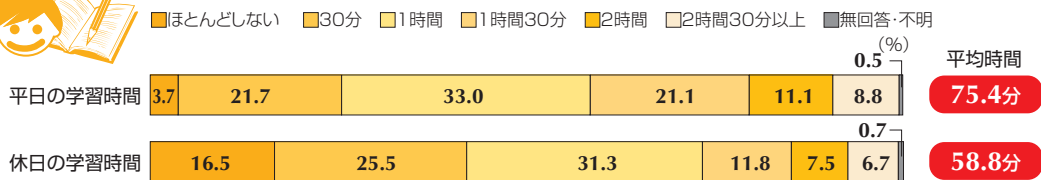
平日の学習時間は75分、友だちと遊ぶ時間は69分

受験をしない子どもの生活時間をみると、テレビ視聴時間が長く平均で124.5分になる。一方、学校外の学習時間（平日、学校の宿題・塾での勉強を含む）も平均で75.4分になる。受験をする子どもに比べて友だちと遊ぶ時間が長いのも特徴である。



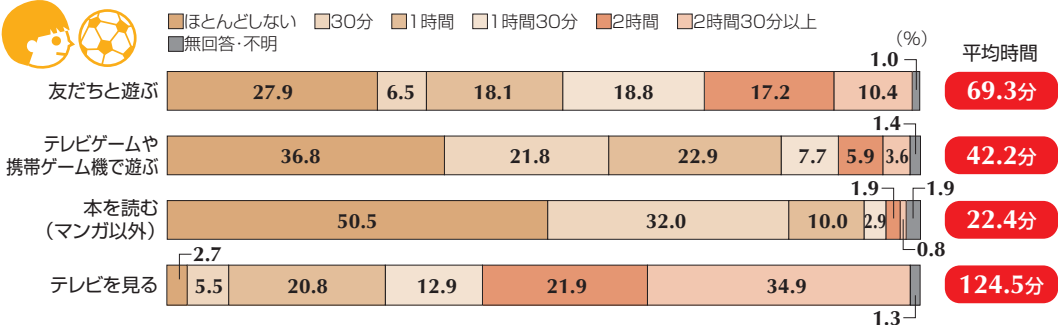
学校以外で、1日にどれくらい勉強しますか。

■ 図3-1 学校外の学習時間

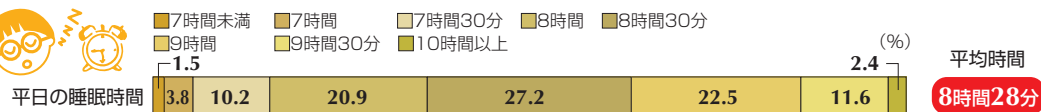


学校が終わってから寝るまでの間に、次のことをどれくらいしますか。

■ 図3-2 放課後の活動時間



■ 図3-3 平日の睡眠時間



注1 学校外の学習時間は、学校の宿題の時間や学習塾で勉強する時間を含む(図3-1)。

注2 「2時間30分以上」は「2時間30分」～「4時間より多い」の%(図3-1、2)。

注3 平均時間は「ほとんどしない」を0分、「4時間より多い」を270分のように置き換えて、無回答・不明を除いて算出した(図3-1、2)。

注4 睡眠時間は起床時刻(「あなたはふだん(学校がある日)、何時ごろに起きますか」)から就寝時刻(「あなたはふだん(学校がある日)、何時ごろに寝ますか」)までの時間を計算したものである。起床時刻または就寝時刻が無回答・不明の場合は分析から除いている(図3-3)。

子ども

受験する子どもの生活

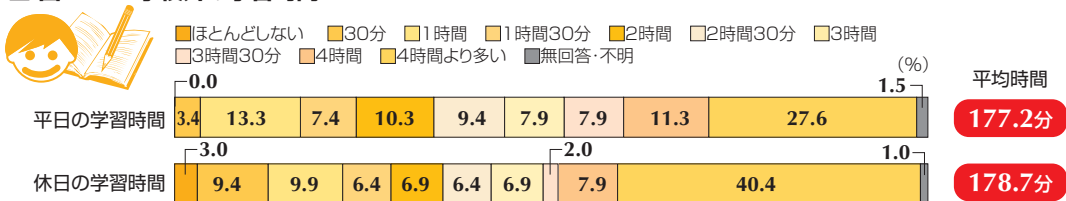
1日に4時間より多く勉強する割合は、平日で3割、休日で4割

受験する子どもは学習時間が長く、「4時間より多い」の比率は平日で27.6%、休日で40.4%に達する。「本を読む(マンガ以外)」時間も、受験をしない子どもに比べ若干長くなっている。



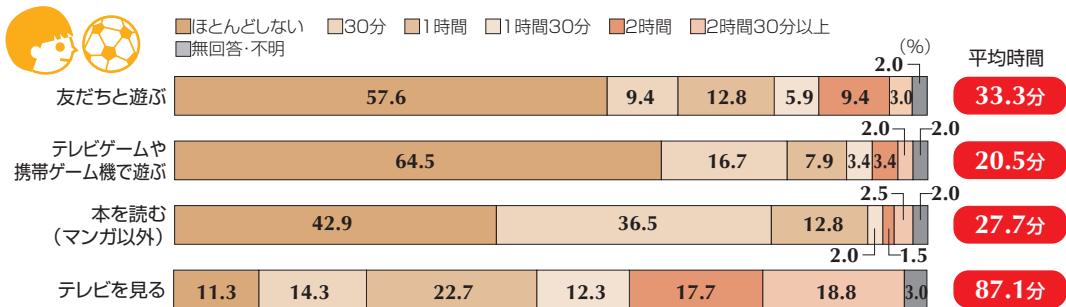
学校以外で、1日にどれくらい勉強しますか。

■ 図3-4 学校外の学習時間

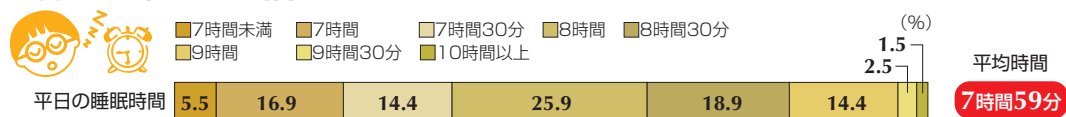


学校が終わってから寝るまでの間に、次のことをどれくらいしますか。

■ 図3-5 放課後の活動時間



■ 図3-6 平日の睡眠時間



注1 学校外の学習時間は、学校の宿題の時間や学習塾で勉強する時間を含む(図3-4)。

注2 「2時間30分以上」は「2時間30分」～「4時間より多い」の%(図3-5)。

注3 平均時間は「ほとんどしない」を0分、「4時間より多い」を270分のように置き換えて、無回答・不明を除いて算出した(図3-4、5)。

注4 睡眠時間は起床時刻(「あなたはふだん(学校がある日)、何時ごろに起きますか」)から就寝時刻(「あなたはふだん(学校がある日)、何時ごろに寝ますか」)までの時間を計算したものである。起床時刻または就寝時刻が無回答・不明の場合は分析から除いている(図3-6)。

子ども

通塾状況

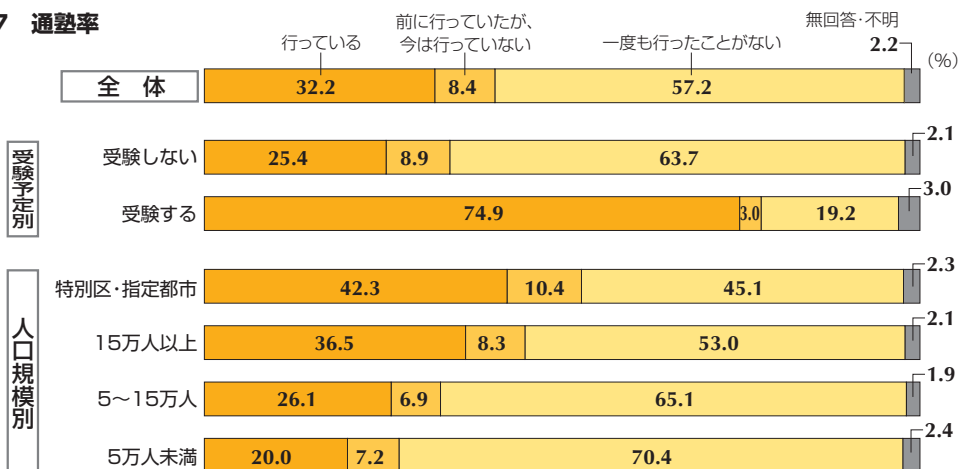
受験予定や地域の違いによって、通塾率に差がみられる

全体の通塾率は32.2%。受験する子どもや人口規模の大きい地域では、より高い比率になっている。通塾する理由は、「学校の勉強がわかるようになるため」、通塾しない理由では「自分で勉強すればよいから」がもっとも多い。



学習塾に行っていますか。

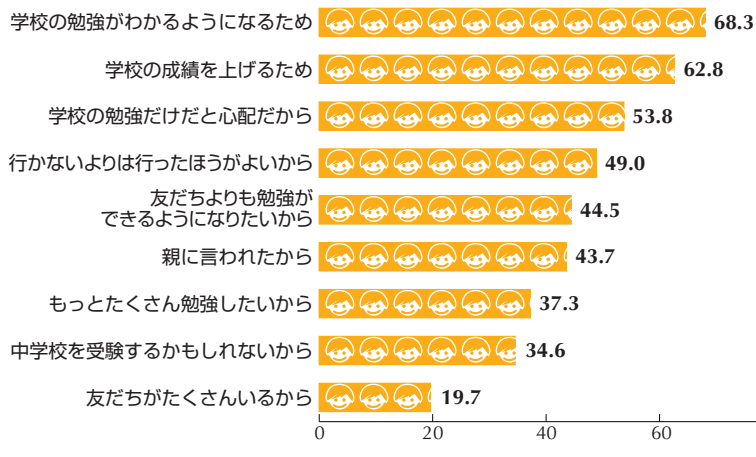
■ 図3-7 通塾率



学習塾に行っている子どものみ対象

学習塾に行っているのは、どうしてですか。

■ 図3-8 通塾する理由



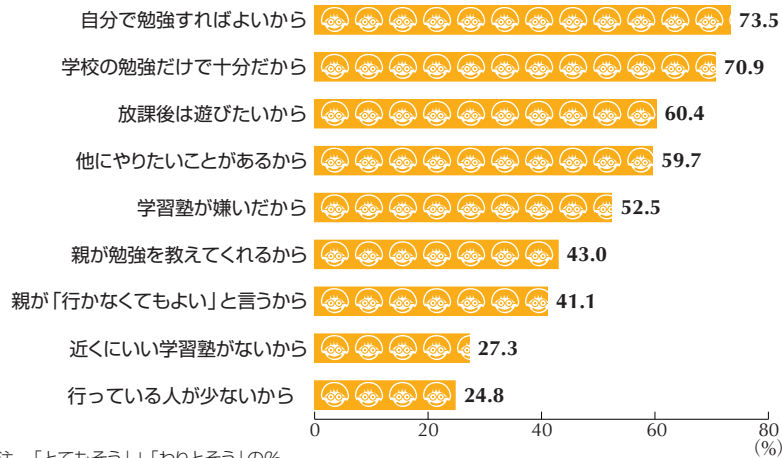
注 「とてもそう」+「わりとそう」の%。



学習塾に行っていない子どものみ対象

学習塾に行かないのは、どうしてですか。

■ 図3-9 通塾しない理由



注 「とてもそう」+「わりとそう」の%。

子ども

心や身体の疲れ

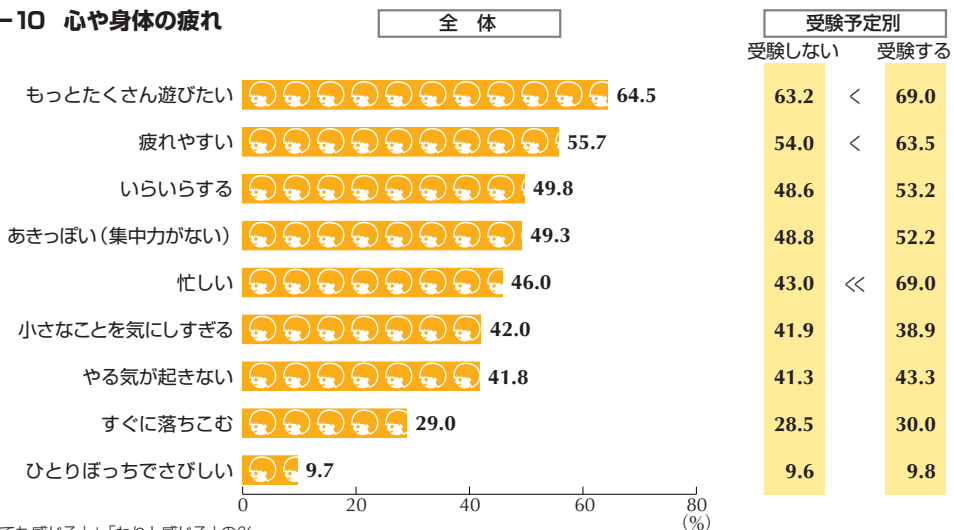
半数以上が「もっとたくさん遊びたい」「疲れやすい」と感じている

受験する子どもは、受験しない子どもに比べて「忙しい」(26.0ポイント差)、「疲れやすい」(9.5ポイント差)、「もっとたくさん遊びたい」(5.8ポイント差)の比率が高く、心や身体の疲れやストレス、多忙感などを強く感じている。



次のようなことを感じるがありますか。

■ 図3-10 心や身体の疲れ



注1 「とても感じる」+「わりと感じる」の%。

注2 <>>は10ポイント以上、<>は5ポイント以上差があるもの。

4 保護者のかかわり

保護者

子どもの教育

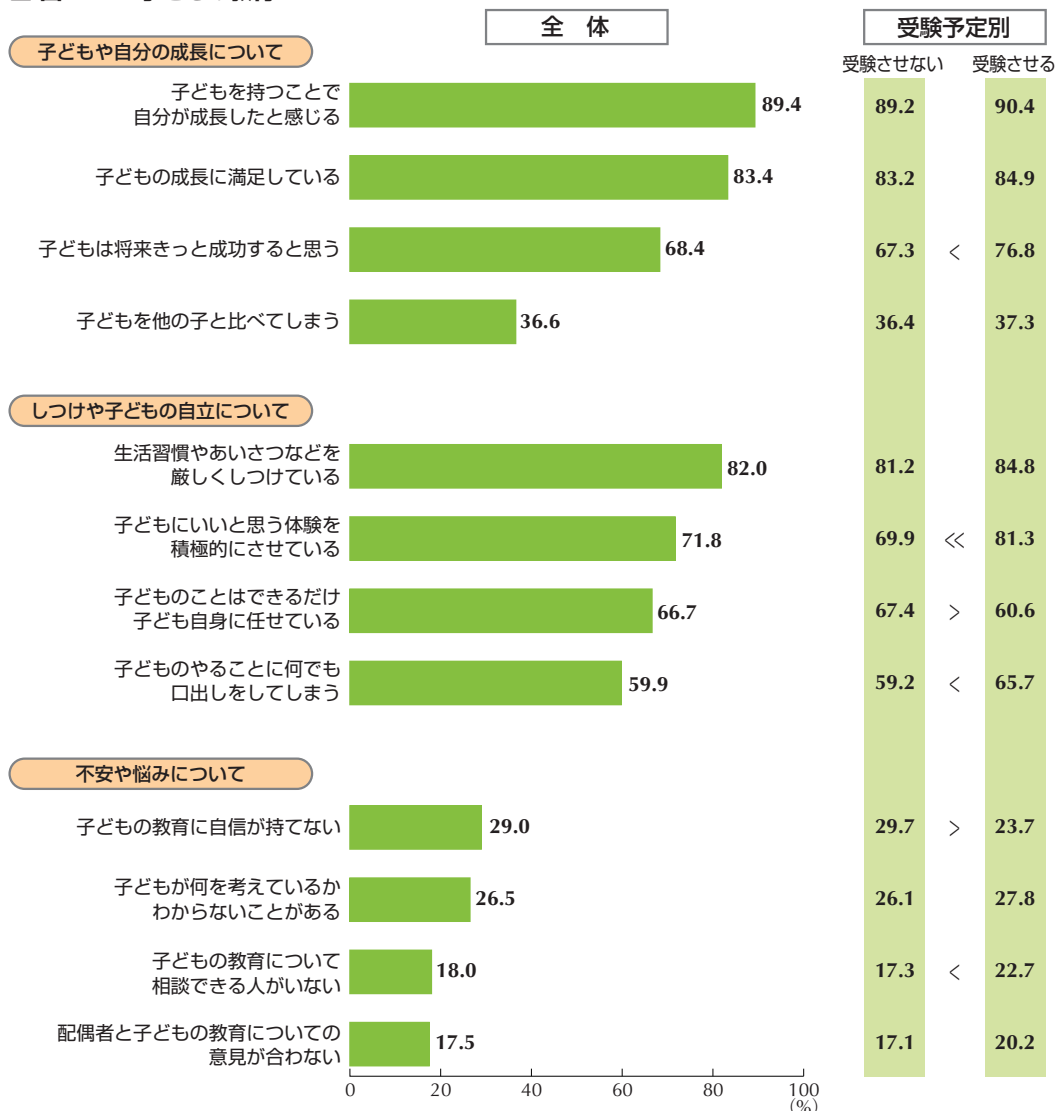
受験させる保護者は、子どもに積極的にかかわる傾向がある

8割以上の保護者は、子どもの成長に満足するとともに、子育てを通じた自分の成長を感じている。一方で、「子どもの教育に自信が持てない」など不安や悩みを持つ保護者も約2～3割いる。受験させる保護者は、子どもの体験や行動に積極的にかかわる傾向が強い。



お子様の教育について、次のようなことはどれくらいあてはまりますか。

■ 図4-1 子どもの教育



注1 「とてもそう」+「わりとそう」の%。

注2 << >> は10ポイント以上、< > は5ポイント以上差があるもの。以下、図4-3まで同様。

子ども

子どもからみた母親・父親

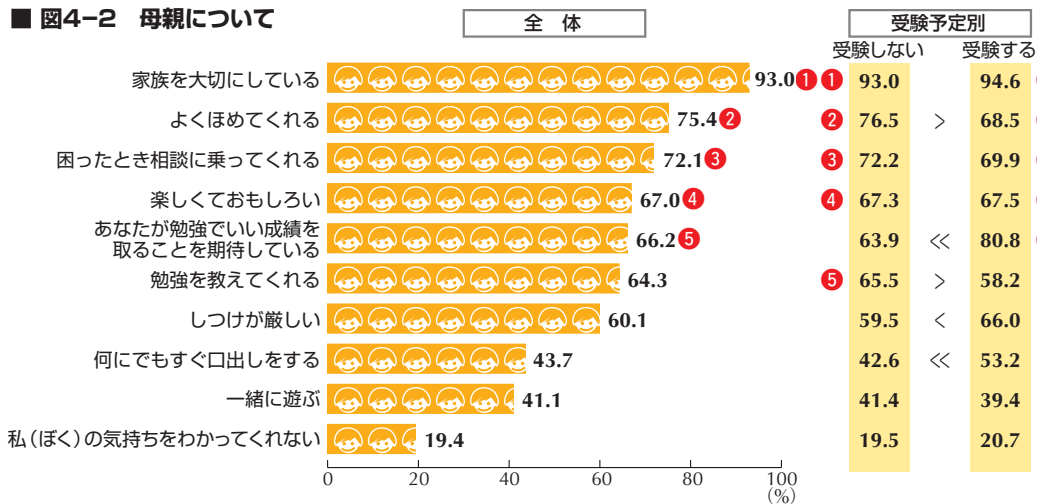
受験する子どもは、保護者からのプレッシャーを感じている

受験しない子どもは、母親について「よくほめてくれる」、父親について「楽しくておもしろい」など、子どもに寄り添う親のイメージを強く持っている。一方、受験する子どもは、母親・父親について「勉強でいい成績を取ることを期待している」とプレッシャーを感じている。



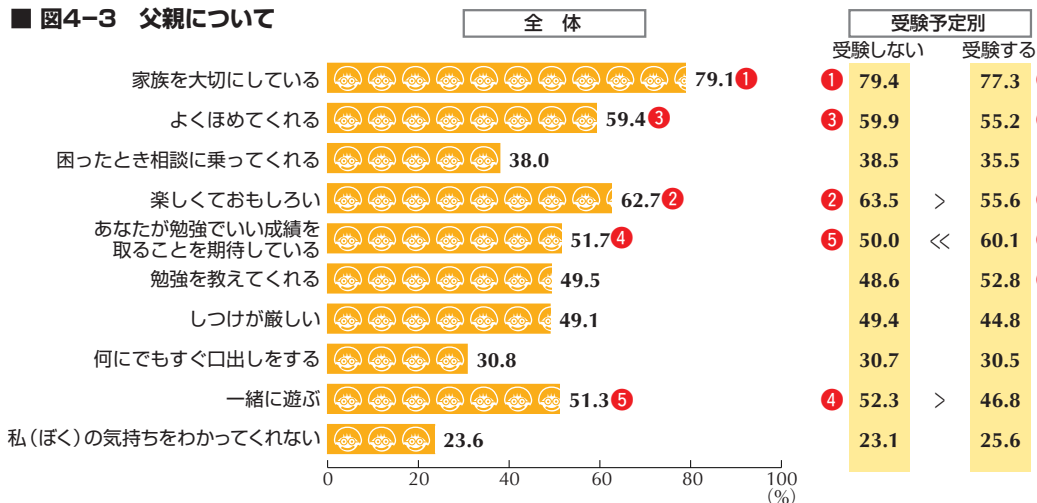
お母さんについて、次のようなことはどれくらいあてはまりますか。

■ 図4-2 母親について



お父さんについて、次のようなことはどれくらいあてはまりますか。

■ 図4-3 父親について



注1 「とてもあてはまる」+「わりとあてはまる」の% (図4-2、3)。

注2 「全体」「受験しない」「受験する」ごとに、上位5項目までを①～⑤と表示 (図4-2、3)。

保護者

子どもの将来に対する期待

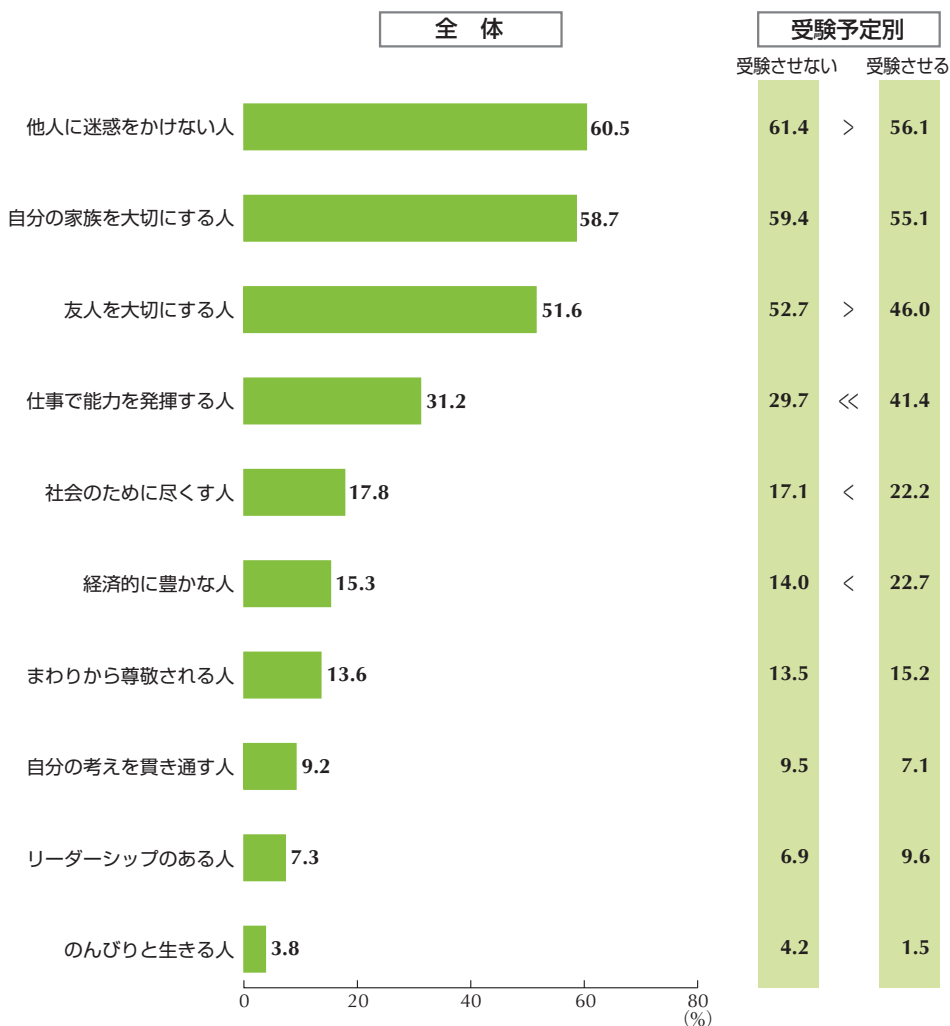
保護者は、人間関係を大切にすることを重視している

半数以上の保護者が、「他人に迷惑をかけない人」「自分の家族を大切にする人」「友人を大切にする人」を選択し、人間関係を重視している。受験させる保護者は、「仕事で能力を発揮する人」が約4割、「社会のために尽くす人」「経済的に豊かな人」が約2割と、仕事や社会での活躍も期待する傾向が強い。



お子様に、将来どのような人になってほしいと思いますか。

■ 図5-1 子どもの将来像



注1 10項目の中から3つまで選択して回答。

注2 << >>は10ポイント以上、< >は5ポイント以上差があるもの。

保護者 子ども 希望する進学段階

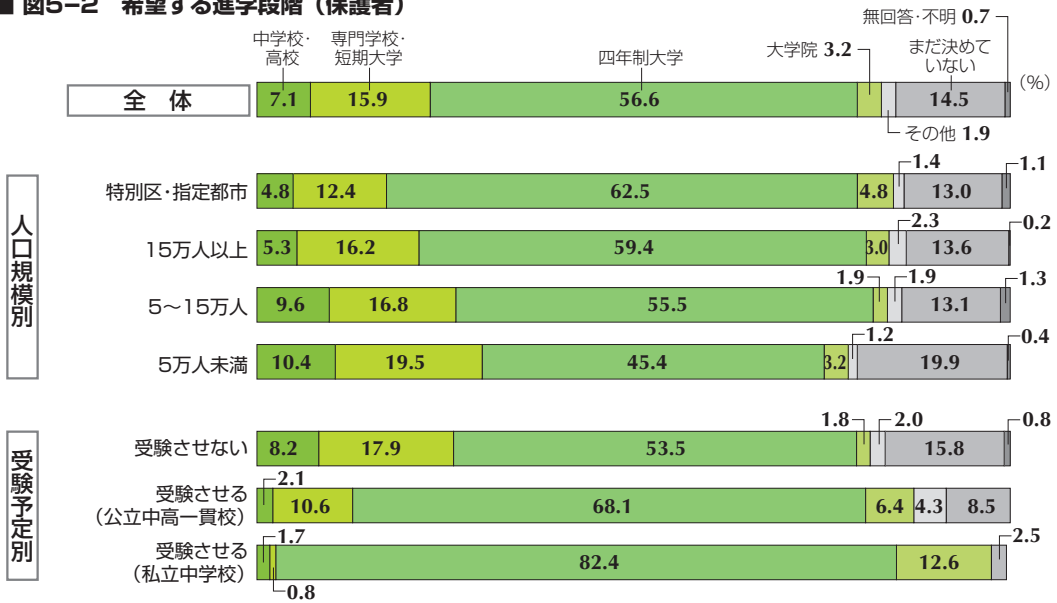
保護者の約6割、子どもの約4割が大学卒業以上の学歴を希望している

保護者の約6割、子どもの約4割が大学卒業以上（「四年制大学」+「大学院」）の学歴を希望しており、都市部ほどその比率は高い。また、受験予定によっても、希望する進学段階には大きな違いがみられる。



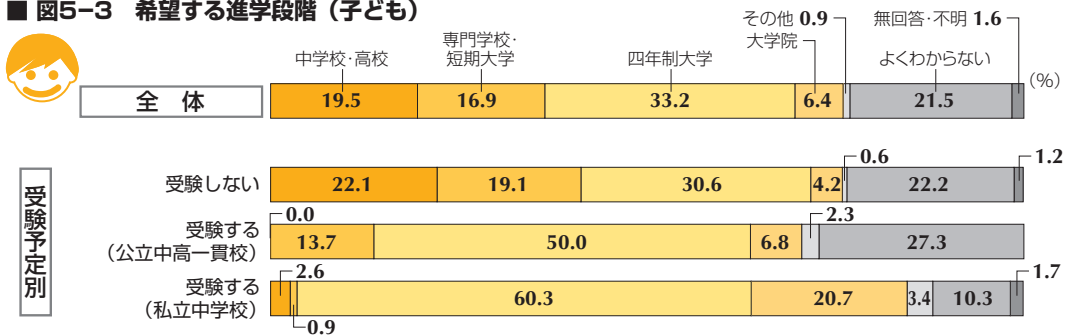
お子様を将来、どの学校まで進学させたいと思っていますか。

■ 図5-2 希望する進学段階（保護者）



将来、どの学校まで進みたいですか。

■ 図5-3 希望する進学段階（子ども）



注1 「中学校・高校」は「中学校」+「高校」の%、「専門学校・短期大学」は「専門学校」+「短期大学」の%（図5-2、3）。

注2 「公立中高一貫校」は、保護者に対する「第一志望の学校は、どのような中学校ですか」の質問に「公立の中高一貫校」と回答した人。「私立中学校」は同じ質問に「私立中学校」と回答した人（図5-2、3）。

保護者

教育観

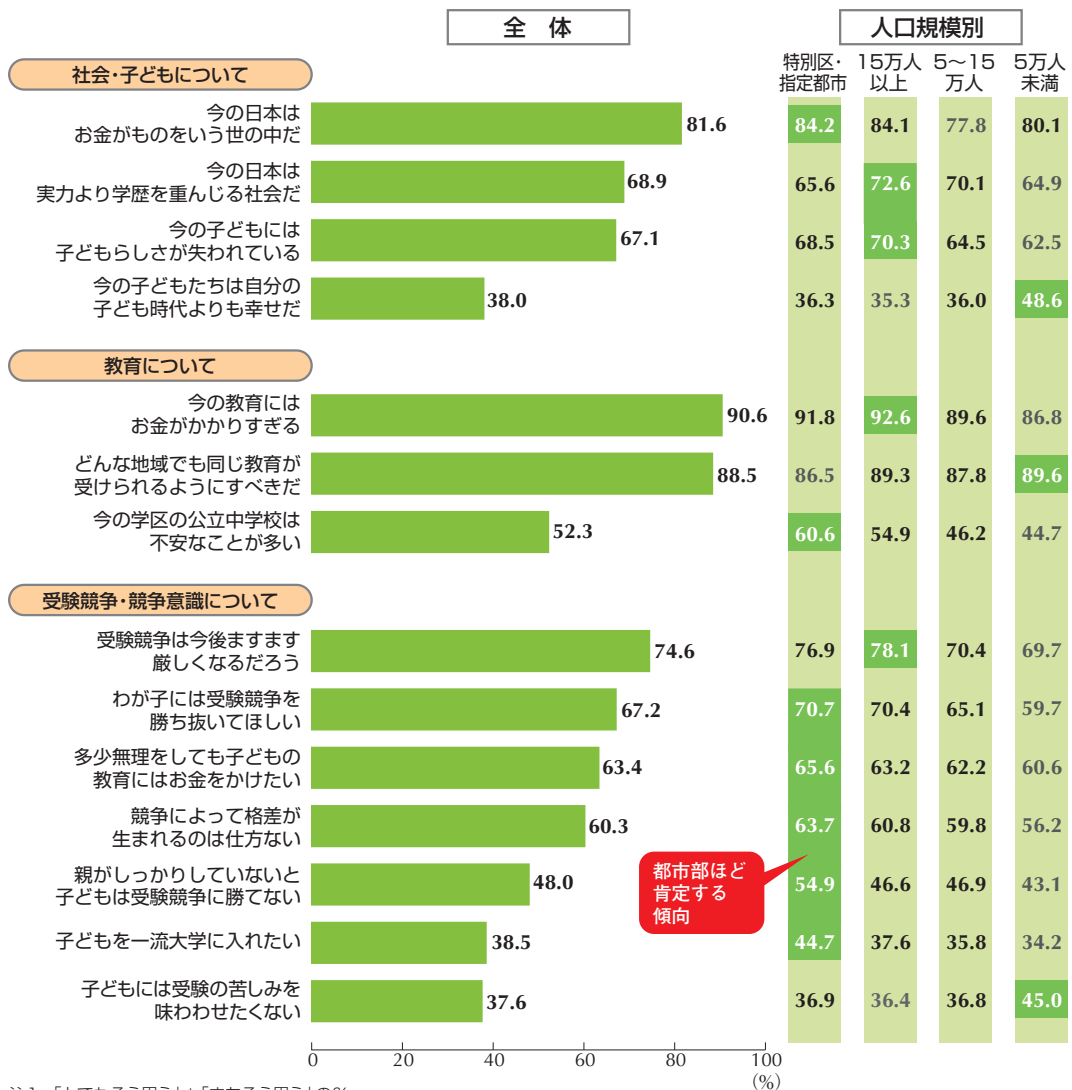
都市部の保護者ほど、受験競争や格差を肯定している

9割の保護者が、「今の教育にはお金がかかりすぎる」「どんな地域でも同じ教育が受けられるようにすべきだ」と回答し、平等な教育環境を求めている。一方で、6割以上が「わが子には受験競争を勝ち抜いてほしい」「競争によって格差が生まれるのは仕方ない」と考えている。



教育に関する次のような意見や考えについて、どのように思いますか。

■ 図5-4 教育に関する意見や考え



都市部ほど肯定する傾向

保護者

教育費

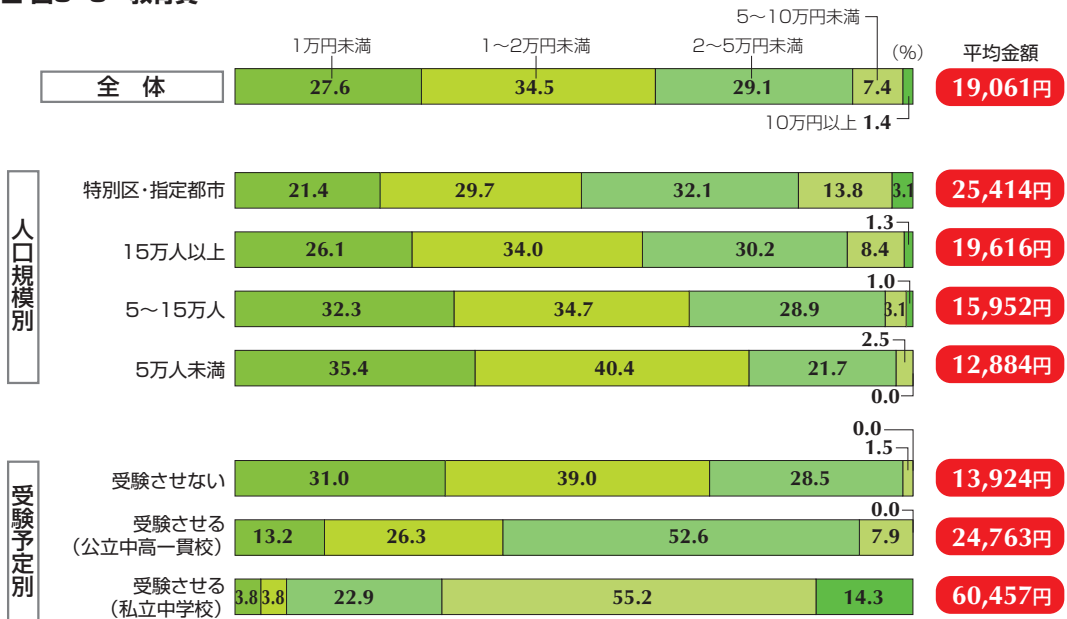
私立中学校の第一志望者は、平均の3倍以上の教育費をかけている

子ども1人あたりの教育費の平均額は約2万円で、都市部ほど平均額は高い。また、公立中高一貫校第一志望者の場合、平均額は約2.5万円であるが、私立中学校第一志望者の場合は、全体の平均の3倍以上にあたる約6万円で、月額10万円以上の者も14.3%いる。



6年生のお子様、1人にかかる教育費は、月平均でいくらぐらいですか。

■ 図5-5 教育費



注1 教育費は、小学校でかかる費用は除き、学用品などは含め、千円単位で回答してもらった。数値は無回答・不明を除いて算出した。

注2 「公立中高一貫校」は「第一志望の学校は、どのような中学校ですか」の質問に「公立の中高一貫校」と回答した人。「私立中学校」は同じ質問に「私立中学校」と回答した人。

中学校選択に関する調査

調査企画・分析メンバー

樋田大二郎（青山学院大学教授）

子安 潤（愛知教育大学教授）

土橋 稔（世田谷区立給田小学校校長）

荒川 英央（日本橋学館大学講師）

木村 治生（Benesse 教育研究開発センター教育調査室室長）

邵 勤風（Benesse 教育研究開発センター研究員）

橋本 尚美（Benesse 教育研究開発センター研究員）

宮本 幸子（Benesse 教育研究開発センター研究員）

※所属・肩書きは、刊行時のものです。

●『中学校選択に関する調査 報告書』は2008年9月 刊行予定です。

本調査の詳細な報告書は2008年9月に刊行する予定です（230頁程度、頒価1,000円）。報告書をご希望の方は、Benesse 教育研究開発センターのWEBサイトの「調査・研究データ→報告書の申し込み」より、必要事項をご入力ください。発刊次第、お届けいたします。

なお、この報告書は書店ではお買い求めになれません。直接、Benesse 教育研究開発センターにお申し込みください。

Benesse 教育研究開発センターで実施している各種調査結果は、

<http://benesse.jp/berd/>または で検索できます。